
会 告

第72回講演大会討論会テーマのお知らせ

今秋、関西地区において開催予定の第72回講演大会における討論会テーマは下記のごとく決定いたしました。多数ご応募下さるようお知らせいたします。

論文募集の詳細については追って「鉄と鋼」会告にてご案内いたしますが、執筆要領は講演論文寄稿規程に準じます。

記

1. 討論会テーマ

- 1) 高炉における高圧操業
 - 2) 鋼の脱酸と非金属介在物
 - 3) 熱間振り試験による鋼の加工性の評価
 - 4) X線マイクロアナライザーの鉄鋼への応用
2. 原稿募集方法 詳細は「第72回講演募集」時に合わせて発表いたします。
3. 原稿締切日 昭和41年5月16日(月)の予定

第71回講演大会案内

— 4月5日～8日 —

第71回講演大会の開催日が決定いたしました。来春は第51回通常総会も開催されますが詳細は追って本誌会告をもつてお知らせいたします。

記

講演大会

期 日 昭和41年4月5日(火)～7日(木)

会 場 東京大学(東京都文京区本郷7-3-1)

講演プログラム 「鉄と鋼」第52年第2号にて発表いたします。

講演論文集 「鉄と鋼」第52年第3号および第4号を講演論文集として発行いたします。

見学会 日本金属学会と合同

期 日 昭和41年4月8日(金)

会費払込みのお願い

昭和41年分会費の納入期日(12月31日)が過ぎましたが、納入されていない方は大至急お払込み下さいますようお願い申し上げます。

お払込みには綴り込みの振替用紙を利用されるか、定額小為替証書または現金書留によるご送金が便利かと思われ

ます。

会費払込み方法については、毎年12月に翌年分を一度にお払込みになるか、または12月に翌年1月から6月までの6カ月分を、6月にその年の7月から12月までの6カ月分を二度にわけてお払込みいただくことになっております。

記

会 費 正会員 2000円 学生会員 1200円
送 付 先 東京都千代田区丸ノ内 1-1 日本交通公社ビル 8階
日 本 鉄 鋼 協 会
振替貯金口座 東京 193

Tetsu-to-Hagané Overseas 論文寄稿規程について

Tetsu-to-Hagané Overseas はご承知のごとく、わが国の学術および技術を広く海外へ紹介する目的で昭和36年より年4回発行してまいりました。以来今日では、海外における会員ならびに購読者数も著るしく増加し、非常に好評を得るにいたっております。

本会編集委員会では昭和38年「鉄と鋼」寄稿規程を改善し、以来内容の充実をはかつてまいりましたが、ひきつづき Overseas の寄稿規程についても検討してまいりました。今までは原則として、「鉄と鋼」に掲載された論文中より選定し、掲載しておりましたが、会員各位の強い要望により、今後自由投稿の形式をとり、わが国の優れた鉄鋼技術ならびに研究内容をより速みやかに海外へ紹介できるよう新たに Tetsu-to-Hagané Overseas 論文寄稿規程を設け、昭和41年1月1日から実施することになりました。

本会では会員諸兄のご協力を基に、本誌を内容の充実した権威ある学会誌とすべくさらに一段の努力を重ねていきたいと考えております。本会の意を諒とせられ奮つてご投稿下さいますようご案内いたします。

「Tetsu-to-Hagané Overseas」論文寄稿規程

(1) 本協会会員は本寄稿規定に従い、本協会英文誌「Tetsu-to-Hagané Overseas」に論文を寄稿することができる。

(2) 論文は、本誌に載せる前に、ほかの学協会誌およびそれに類する刊行物に欧文(英、独、仏)により発表されていないものに限る。

(3) 論文は、著者の独創的研究成果を主体としてまとめられたものとし、その研究成果がひろく鉄鋼に関する学術ならびに技術へ寄与すると認められるものでなければならない。

(4) 論文は、研究目的、研究方法、研究結果、考察(従来の研究との比較検討を含む)結論などが、正確にかつわかりやく記述されているものとする。

(5) 論文は英文とする。英文は正確であることはもちろん、文章の書き方が学術論文あるいは技術論文にふさわしい格調をもっていることが要求される。

(6) 論文には必ず500語以内の synopsis を添付する。synopsis は、それによつて論文の要旨が具体的にわかるように書かれていなければならない。

(7) 英文原稿の本文は、厚手のタイプ用紙(A4判)に上下おのおの約3cmの余白を残し、27行詰、ダブルスペースとし、タイプライターをもつて清書する。英文原稿(図、写真、表を含む)は正副2通、論文および synopsis の日本語訳各1通(本会所定の原稿用紙使用)を提出する。また日本文原稿の左側に英文ページの変わり目を書き入れる。

(8) 論文の原稿の長さは、表を含めてタイプ用紙30枚(表は1表をタイプ用紙1枚とみなす)以内とし、図、写真は原則として10枚以内とする。同一事項を図、表両方で表わさない。

(9) 単位は原則としてCGS単位系を用いるが、電磁気量の場合にはMKS単位系を用いてよい。単位の略記号は国際的慣用に従う。周知でない単位には略記号を用いない。

(10) 元素名、合金名、化合物名、学術用語などで、本文中にしばしば出てくるものは、文章の短縮を目的として記述の明確さを失なわない程度に、なるべく化学記号その他の略記号によつて示すが、その論文の主題となつている研究の領域で慣用的な短い名称、用語は記号表示しない。略記号を用いる場合には、本文中それが最初に出てくる場所でその略記号の意味を明示する。(例) Austenite (γ)………, Lankford value (R).

(11) ギリシャ文字、記号、上ツギおよび下ツギ添字などをペン書きするときにははていねいに記し、混同しやすい文字、記号はとくに注意して書く。(例 a と α ; P と p と ρ ; O と o と 0 ; Fe^{2+} , P_{H_2O}) ゴシック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ \sim , — を付ける。

(12) 数式は印刷に便利のように注意し、 a/b , $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべく少ない行数で表わすように書く。また数段にわたる複雑な数式はタイプでなくペン書きとする。

(13) 表、図、写真には別々に通し番号および説明文を付ける。その説明文のみによつて表、図、写真の意味が理解できる程度に簡潔に書く。写真には必ず倍率を記入する。

(14) 図および写真は横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の2~3倍とし、て下記の縮尺記号を赤字で記入しておく。(イ) 横 8cm (縮尺記号 A) (ロ) 横 17cm (縮尺記号 B)

刷り上がり後の縦の寸法は25cm以下とする。

図は厚手の白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて正確に書き、図および図中の文字はローマン体で縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書く。

(15) 表, 図, 写真は散逸を防ぐため, タイプ用紙と同じ大きさの台紙に貼付し, 右下隅に著者名を記入する. 表, 図, 写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし, 原稿中には右欄外にそれらの挿入箇所を指定する. 原稿本文中に表, 図, 写真挿入箇所を指摘し空白にあげない.

(16) 参考文献は通し番号を付け, 本文の最後一括して番号順に示し, 本文中における文献引用箇所にはその文献の番号(かっこ付き)を上つき小数字で示す.

参考文献は, 著者名: 雑誌名, 巻数, 発行年度, 号数, ページ数 の順に記載する.

(例) R. K. GLASS: Blast. Furn. & Steel Plant, 64 (1958) 2, p. 198~204

雑誌名は付表の略記例に従う. 単行書は著者名: 書名, (発行年度) ページ数, [出版社名] の順に記載する.

(17) 寄稿論文の受理年月日は, 原稿が本協会に到着した日付とする. 論文の内容の主要部が本協会講演大会あるいは会誌「鉄と鋼」で発表されている場合には, その講演論文または論文を脚注として示す.

(18) 寄稿論文は編集委員会において審査される. 審査の結果, 修正, 加筆, 削除などが要求され, 原稿をいつたん著者に返送することがある, その場合修正原稿を1ヵ月以上経過して協会に再提出したときは, 新規提出とみなされる.

(19) 掲載論文については希望に応じ, 所定の料金で別刷を作製する.

付 表 文 献 略 記 例

雑 誌 名	略 記	雑 誌 名	略 記
Acta Metallurgica	Acta Met.	Journal of the Iron and Steel Institute	J. Iron & Steel Inst. (U. K.)
American Foundrymen's Society, Preprint	Amer. Foundrym., Preprint	Journal of Metals	J. Metals
American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers,		Les Mémoires Scientifiques de la Revue de Métallurgie	Mém. Scient., Rev. Mét.
— Blast Furnace, Coke Oven & Raw Materials Committee, Proceedings	Proc. Blast Furn.	Metal Finishing	Metal Finishing
— The Electric Furnace Committee, Proceedings	Proc. Electr. Furn.	Metal Finishing J.	Metal Finishing J.
National Open-Hearth Steel Committee, Proceedings	Proc. Open-Hearth	Metal Progress	Metal Progress
American Iron and Steel Institute, — Annual Statistical Report	Amer. Iron & Steel Inst. —, Ann. Stat. Rep.	Metal Treating	Metal Treating
— Contribution to the Metallurgy of Steel	—, Cont. Met. Steel	Metalloberfläche	Metalloberfläche
American Society for Metals, Preprint	Amer. Soc. Metals, Preprint	Metallurgia	Metallurgia
American Society for Testing Materials, — Preprint	Amer. Soc. Test. Mat., —, Preprint	Metallurgia Italiana	Met. Ital.
— Special Technical Publication	—, Spe. Tech. Pub.	Metallurgia et la Construction Mécanique	Mét. et Constr. Mécan.
Archiv für das Eisenhüttenwesen	Arch. Eisenhüttenw.	Modern Castings	Mod. Castings
Blast Furnace and Steel Plant	Blast Furn. & Steel Plant	Revue de Métallurgie	Rev. Mét.
British Iron and Steel Research Association, Reports	Brit. Iron & Steel Res. Assoc., Rep.	Schweissen und Schneiden	Schweissen u. Schneiden
British Welding Journal	Brit. Welding J.	Sheet Metal Industries	Sheet Metal Ind.
Centre de Documentation Sidérurgie, Circulaires d'Informations Techniques	Centre Doc. Sidér., Circ. Inform. Tech.	Stahl und Eisen	Sahl u. Eisen
Corrosion	Corrosion	Stal	Stal
Foundry	Foundry	Steel	Steel
Foundry Trade Journal	Foundry Trade J.	Steel Processing	Steel Process.
Giesserei	Giesserei	Transactions of the Metallurgical Society, American Institute of Mining, Metallurgical & Petroleum Engineers	Trans. Met. Soc., Amer. Inst. Min., Met., & Pet. Eng.
Iron Age	Iron Age	Transactions of the American Society for Metals	Trans. Amer. Soc. Metals
Iron and Coal Trades Review	Iron & Coal Trades Rev.	Transactions of the Institute of Metal Finishing	Trans. Inst. Metal Finishing
Iron and Steel	Iron & Steel	Transactions of the Institution of Mining and Metallurgy	Trans. Instn. Min. & Met.
Iron and Steel Engineer	Iron & Steel Eng.	Transactions of the Society of Automotive Engineers	Trans. Soc. Auto. Eng.
Iron and Steel Institute, Special Reports	Iron & Steel Inst., Spec. Rep. (U. K.)	United States Bureau of Mines, — Bulletin	U. S. Bur. Mines. —, Bull.
Jernkontrets Annaler	Jernkont. Ann.	— Information Circular	—, Inf. Circ.
Journal of the Institute of Metals	J. Inst. Metals	— Mineral Industry Survey	—, Miner. Ind. Survey
		— Minerals Yearbook	—, Miner. Yearbook
		— Report of Investigations	—, Rep. Invest.
		Welding Journal	Welding J.
		Werkstoffe und Korrosion	Werkstoffe u. Korrosion
		Wire and Wire Products	Wire & Wire Products
		Zeitschrift für Metallkunde	Z. Metallkunde

東海支部特別講演会開催案内

本会東海支部では日本金属学会東海支部と共催で下記により特別講演会を開催いたしますので、多数会員お誘い合わせのうえご来聴下さるようご案内いたします。

記

日 時 昭和41年1月18日(火) 13時

場 所 名古屋大学付属図書館視聴覚室(名古屋市千種区不老町)

講演題目および講師

13:00 最近の冷延鋼板のプレス成形性について

川崎製鉄(株)千葉製鉄所副工場長 吉 田 浩 氏

15:00 精密圧延技術の最近の進歩

東京大学生産技術研究所 教授 鈴木 弘 氏

東海支部渡辺義介記念講演会開催案内

— 2 月 22 日 —

本会東海支部では渡辺義介記念講演会を下記により開催いたしますので、多数会員お誘い合わせのうえご来聴下さるようご案内いたします。

記

日 時 昭和41年2月22日(火) 13:00

場 所 名古屋大学豊田講堂第1会議室(名古屋市千種区不老町)

講演題目および講師

鉄鋼材料の進歩と科学の動き

東京大学生産技術研究所 教授 雀 部 高 雄 氏

九州支部渡辺義介記念講演会開催案内

— 2 月 26 日 —

本会九州支部では第6回渡辺義介記念講演会を下記により開催いたしますので、多数会員お誘い合わせのうえご来聴下さるようご案内いたします。

記

日 時 昭和41年2月26日(土) 10:00~12:00

会 場 北九州市八幡区枝光町1-1

八幡製鉄所技術研究所講演室

映 画 「灼熱に挑む」 10:00~10:25

黒崎窯業(株)提供

講演題目および講師

製鉄技術の今昔 10:30~13:00

黒崎窯業(株)副社長兼八幡製鉄(株)参与

和 田 亀 吉 氏

講演論文集別刷申込について

第71回講演大会講演論文集は会誌「鉄と鋼」第52年第3号、第4号として刊行いたしますが、下記要領に基づいて別刷を作製いたしますので、別刷ご希望の講演者はお申し込み下さるようお知らせいたします。

記

- 1) 別刷作成数 20部に限定いたします。(寄贈別刷は作製いたしません)
- 2) 体 裁 簡単な表紙は付きますが、版の関係上該当論文の前後に、前後論文が入る場合があります。
- 3) 料 金 1論文につき 450円(送料を含む)
- 4) 申込方法 所定の申込用紙にて、料金同封のうえ現金書留にてお申し込み下さい。
- 5) 申込先 東京都千代田区丸ノ内1-1 交通公社ビル
日本鉄鋼協会編集課
- 6) 別刷送付時期 昭和41年4月末日

.....切.....取.....線.....

講演論文集別刷申込用紙

切
取
線

	論文題目	
	講演者名	
	送付先	

8 学会 互 報 欄

本会会員は、すべて主催団体会員に準じた取扱いで参加できます。詳細は主催団体へお問合せ下さい。

行 事 名	開 催 日	会 場	会 費	主催団体	申込締切
超臨界圧ボイラの試験成績と問題点に関する座談会	41. 2. 4(金) 13:00	日本規格協会大講堂	参加自由	日本機械学会	資料 1月26日
ころがり軸受寿命ところがり疲れに関する講演会	41, 2. 15(火) 9:30	都市センター	参加自由	〃	
航空原動機に関する講演会	41. 2. 22(火) 10:05	航空宇宙技術研究所	参加自由	〃	前刷 2月10日
鑄造品の仕上加工	41. 3. 9(水) 9:30	日本化学会 講堂	会員1300円	〃	聴講 2月26日

学 協 会 記 事

金属および合金の強度に関する国際会議

— 日本金属学会創立30周年記念 —

主 催 日本金属学会
場 所 東京
期 日 昭和42年9月4日(日)～8日(金)

この会議は次の2部から成ります。

- 第1部：強度の理論と強化の機構。
- 第2部：高力な金属および合金。

この内容のさらに詳細な説明は、日本金属学会会報、昭和40年6月号および7月号の会告に掲載されております。この会議には日本金属学会会員でなくても参加することができます。参加希望者は、ハガキに論文提出の有無、提出論文の予定項目、氏名、通信先、所属、職名、所属学会名を記入して、仙台市南町60 日本金属学会国際会議組織委員会宛ご送付下さい。

この申込者には今後必要な印刷物を配布いたしますから、出欠が不確実な場合でも申込みをしておかれるようお勧めいたします。

第4回原子力総合シンポジウム開催案内

- 1. 期 日 昭和41年2月14日(月), 15日(火)
- 2. 会 場 学士会館(神田)大集会室, 北大食堂
(東京都千代田区神田錦町 3-28)
- 3. 共催学協会 日本原子力学会, 本会ほか25学協会

詳細についてのお問い合わせは、原子力総合シンポジウム運営委員会(東京都港区新橋 1-1 東電旧館内, 日本原子力研究所内 日本原子力学会気付)へ直接ご連絡下さい。

4. プログラム

第1日 2月14日(月)

A 会 場 (大集会室)

- 講演 1. わが国の動力炉開発の方針 (9:45~1:35)
座長 一本松珠璣氏
- 講演 2. 海外の海水脱塩の現状 (10:45~11:35)
- 討論会 I 原子力施設の立地条件 (12:30~16:00)

原子力委員 武田 栄 一氏
旭化成 角田 吉 雄氏

B 会 場 (北大食堂)

- 総合講演 1. 原子炉に関連する非破壊検査の現状と問題点 (12:30~14:05)
(1) 東海発電所原子炉建設時における非破壊検査とその問題点
(ASME・通産省令および告示等との関連について)
- (2) 原子炉燃料の非破壊検査の現状と問題点

富士電機 三好 滋氏
原 燃 石田 泰 一氏

- 総合講演 2. 核燃料・材料の照射研究 (14:15~16:00)

- (1) 鉄鋼材料
- (2) 照射試験上の問題点
- (3) 主として原研における核燃料の照射開発

東北 幸田 成 康氏
大菱研 関武 谷 清 昭氏

第2日 2月15日(火)

A 会 場 (大集会室)

- 講演 3. 原電東海発電所の発電 (9:30~10:20)
- 講演 4. 放射線化学の海外における近況 (10:30~11:20)
- 総合講演 3. ベリリウムについて (12:30~13:50)

原 電 辻本 進氏
旭硝子 船岡 正 男氏

- (1) 製錬および酸化ベリリウム
- (2) 原子炉材料としてのベリリウム

日本碍子 貴田 勝 造氏
東北大・金研 諸住 正太郎氏

- 討論会 II パーンアウトのメカニズムとその対策 (14:00~16:00)

B 会 場 (北大食堂)

- 総合講演 4. 核融合研究の技術的諸問題 (12:30~14:30)
(1) わが国における研究の現状
(2) 海外における研究の現状
(3) 新しい高温プラズマ発生技術と問題点

名大・プラ研 内田 岱二郎氏
原 研 森 中 千代衛氏
阪 大

プロセスガスクロマトグラフ講習会

—昭和41年2月16・17・18日—

主催	計測自動制御学会，工業技術院東京工業試験所
協賛	本会ほか4学協会
期日	昭和41年2月16日(水)，17日(木)，18日(金)
会場	工業技術院東京工業試験所 東京都渋谷区本町 1-1 TEL 377-5211 京王線初台駅下車，徒歩3分
プログラム	第1日(2月16日) 10:00~12:10 ガスクロマトグラフィ概論 13:10~17:40 ガスクロマトグラフィ装置 第2日(2月17日) 9:20~12:10 プロセスからみたガスクロマトグラフィ 13:00~17:40 取扱実習 第3日(2月18日) 9:20~12:10 カラム技術からみたガスクロマトグラフィ 13:10~17:40 取扱実習
費用・定員	A 聴講と実習 40名 8,000円(主催，協賛学会員) 10,000円(会員外) B 聴講のみ 40名 4,000円() 6,000円()
申込締切	昭和41年1月31日(月)
申込方法	はがき大の紙に「プロセスガスクロマトグラフ講習会」と題記し，参加区分(AまたはB)，氏名(ふりがな)，勤務先(部課名，住所，電話)，連絡先，卒業年次および最終卒業学校名，所属学協会名を明記し，参加費を添えてお申し込み下さい。
申込先	東京都港区芝琴平町20 計測会館内 (TEL502-1917) 計測自動制御学会

応力測定に関する講習会

主催	日本材料学会
協賛	本会ほか8学協会
日時	昭和41年3月9日(水)，10日(木)，11日(金)の3日間
会場	京都工芸繊維大学工芸学部 (京都市左京区松ヶ崎 TEL 78-4141)
定員	講義および実習 50名 講義のみ 上記50名のほかに50名
聴講料	講義および実習 会員 7,500円 非会員 9,000円 講義のみ 〃 2,500円 〃 3,000円 X線応力測定テキストには養賢堂発行の「X線応力測定法」を使用します。ご入用の方は聴講料のほかに1,300円を添えてお申し込み下さい。 応力塗料と半導体ひずみ計のためのテキストは上記聴講料中に含まれております。
申込締切	昭和41年2月28日(月)
申込方法	随意用紙に講義実習，講義のみの区別および氏名，所属，連絡先等明記のうえ日本材料学会応力測定講習会係(京都市左京区吉田泉殿町 1-101 TEL 77-1912 振替口座 京都 26625 番)へお申し込み下さい。

プログラム

第1日(3月9日(水))	講義	
9:30~12:00	応力塗料	京工織大教授 工博 菅野 昭氏
1:00~4:00	X線応力測定	京大工教授 工博 平 修二氏
4:00~6:00	半導体ひずみ計	豊田中研 工博 五十嵐 伊勢美氏
第2日(3月10日(木))，第3日(3月11日(金))	9:30~4:00	
○	X線および応力塗料による応力測定の実習	
○	半導体ひずみ計およびひずみ計新製品の展示実演	

第17回国際電気化学会議

主 催 Comité International de Thermodynamique et de Cinétique Electrochimiques (CITCE).
Associated Organisation of International Union of Pure and Applied Chemistry (IUPAC)

協 賛 日本学術会議, 電気化学協会, 日本化学会

期 日 昭和 41 年 9 月 4 日~13 日

会議内容

東京大会 9月5日~9日 (4日登録およびレセプション) 東京プリンスホテル

I 一般主題

- 1) 腐食, 不働態, 電着および電池に関する基礎的諸問題
- 2) 有機電気化学

II 分科会

- | | |
|----------------|-------------|
| 1) 電気化学熱力学 | 5) 腐食 |
| 2) 電極反応論 | 6) 電池 |
| 3) 電気化学実験法 | 7) 半導体の電気化学 |
| 4) 高温電気化学(熔融塩) | 8) 有機電気化学 |

京都討論会 9月12~13日(各午前中) 国際ホテル

I 熔融塩——熔融塩の物性

II 燃料電池——燃料電池研究における諸問題

参加および講演申込の要項

- 締切 昭和41年3月1日
- 講演申込の場合は 200 語の Abstract (英独仏のいずれか) を添付のこと。なお昭和41年5月1日までに欧文の Extended Abstract を提出する。
- 発表用語は原則として英独仏のいずれかとするが、日本語の発表も認める。ただし日本語の場合は前もって欧文の Full Paper を各自用意する。
- 論文内容は基礎的なものが望まれる。

参加申込書 (Formal Application Forms 11 通1組)

ご希望の方は宛先を記入した返信用封筒(長2号封筒使用のこと)と 150 円(郵送料 30 円を含む)を添えて下記の事務局宛お申し込み下さい。

東京都世田谷区深沢 1-950 東京都立大学工学部工業化学教室内

第17回国際電気化学会議国内組織委員会事務局

TEL (717) 0111, 内線 530, 533, 535